



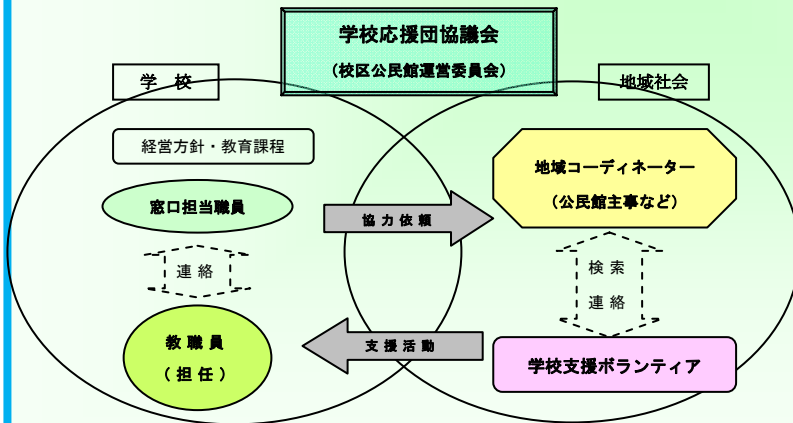
# 指宿市の取組

## 地域の教育力の向上（かごしま学校応援団）

指宿市ではこれまでも、平成20年度～22年度までの3年間、文部科学省委託の「学校支援地域本部事業」を導入し、市内の2中学校区・4小学校区において、学校応援団事業を展開してきました。23年度からは、本事業による取組の成果を継続するため、市内全小・中学校（小学校12校、中学校5校）を対象に発展的に実施することにしました。

地域コーディネーターについては、学校支援ボランティアとの連絡・調整や、学校と地域の交流・連携による教育環境づくりを推進するという考えから、地域住民や地域団体と深いつながりを持ち、かつ地域の人的・物的資源をよく知っている公民館主事をお願いしました。また、中学校については、教職員やPTAのOBを地域コーディネーターに充てています。現在、市内全小学校区・中学校区に各1人の地域コーディネーターを配置して、学校からの様々なニーズに応えています。

### 【いぶすき学校応援団の構造図】



柔道の指導補助（西指宿中学校）



遊具のペンキ塗り（大成小学校）

## 図書館・読書活動（本の世界から伝承遊びへ）

山川図書館では、幼稚園や小中学校、ふれあいクラブ、地域の子ども会など外部へ出向き、「出張おはなし会」を行っています。図書館から距離的に離れた所に住んでいる、来館するのが困難な方々へのサポートとして行っています。

先日、1月21日に地域の子ども会で「おはなし会」が開催されました。

この日は異年齢が集う「おはなし会」でした。子どもたちに「伝承遊び」を伝えることは大切ですが、最近では、子ども同士の異年齢での交流が減り、「伝承遊び」を子どもから子どもへ受け継ぐことが難しくなっています。そこで、「おはなし会」のプログラムの中に「伝承遊び」を取り入れるようにしました。

読み聞かせた絵本は『びゅんびゅんごまがまわったら』（宮川ひろ・作）でした。校長先生と児童が「びゅんびゅんごま」を通して交流する話でした。読み聞かせの後、実際に「びゅんびゅんごま」を回して見せ、子どもたちと一緒に製作をし、その後は自分で作ったこまを回す練習でした。すぐに回せる子、なかなか回せない子がいる中で、子どもたち同士でうまく回すコツを教え合う光景があちこちで見られました。

伝承遊びを通して経験を重ね、その経験が知恵となって社会性が育まれます。子ども同士で伝わるのが難しくなった伝承遊びを、絵本を通して子どもたちへ伝えることが図書館職員としてできる伝承の仕方なのだと思います。これからもこのような活動を続けていきたいと思っています。



びゅんびゅんごまの製作